

学校名	丹波市立氷上中学校
-----	-----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
「地域に誇りを持ち、未来に向かって 学び続ける生徒の育成」 ～オール氷上で磨き合う学校 チーム氷上で支え合う学校～	(1) 確かな学力の育成 (2) 生徒と教師の居場所づくり (3) 教職員が生徒に向き合う環境づくり (4) 信頼される開かれた学校づくり

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	保護者・地域住民との連携	生徒の様子や授業参観、懇談会、学校行事等の案内など、学校の教育活動の情報を学校だよりやHP等で保護者・地域へきめ細かく伝える。	A	今年度も学校便り、学年通信、保健だより等で学校の様子を知らせることができた。また、ホームページの「校長室の窓」「子どもの様子」を随時更新し、学校行事や生徒による教育活動を、きめ細やかに保護者に情報発信することができた。今後も継続して、子どもたちの様子を地域や保護者へ伝えていきたい。
		保護者・地域住民の方々にオープンスクールや授業参観、学校行事や講演会に参加していただき、地域に開かれた学校づくりを推進する。	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、学校をオープンにすることが難しい1年であった。今年度は地域の方はもちろん、保護者の方にも授業を参観してもらうことができなかったが、日ごろの授業の様子などを積極的にホームページ等で紹介するなどして発信する機会を作った。また、体育大会や文化祭などの行事では感染対策を行って、可能な限り保護者の方に生徒たちの頑張る姿を見ていただけるようにした。コミュニティスクールは来年度設置し、本格的に実施していきたい。
	生徒指導	人権感覚を磨き、いじめを許さず、自他共に「命」を大切にするための指導や活動を充実させる。不登校生徒減少に向けての取組の推進と充実を図る。	C	いじめに関しては、いじめ防止基本方針のもと、組織的に対応に努めた。生徒会本部を中心に「君を守り隊」を編成し、見回りや「ありがとう運動」などの活動を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、活動に制限はあるものの、自分たちでいじめをなくすという強い意識を持って活動している。不登校生徒への取り組みは、不登校担当を中心に組織的に取り組んできたが、今年度も18人(1.8%)在籍するなど昨年度と同水準に留まった。今後も別室登校、時差登校等を必要とする生徒には引き続き支援・指導を続けていきたい。
		学校のいろいろな活動の場面で生徒の達成感や充実感を大切に、主体的に活動できる生徒の育成を図る。	A	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、例年に比べ生徒の活動を縮小することが多かった。中でも、体育大会や文化祭などの行事では、アイデアや工夫を凝らし、できることに取り組もうとする態度や自分の役割に責任を持って行動する姿勢を養うことができた。また各専門委員活動や係活動を通して、自分の役割を果たし、進んで行動する様子が見られた。生徒会本部が考えたチャレンジ企画など全員で取り組む活動が活発に行われた。部活動では、積極的に活動に取り組む生徒が多くみられる。練習に参加しにくい生徒などへの配慮や声掛けを強化していきたい。
安全管理	交通事故の未然防止をはじめ、安全で安心な学校環境づくりを推進する。	B	毎月、登・下校指導の日を設定し、教職員で生徒の登下校の様子を見守り交通指導を行っている。道路工事や、危険箇所があれば、立ち番を行い、生徒が安全に登下校できるように努めた。地域からの苦情も減る傾向がみられるが、指摘をいただいたときは、注意喚起を促し、指導を行った。定期的に学校施設の安全点検を行うとともに、全教職員で、すべての生徒が安心して取り組める環境づくりを進めている。学校評価の保護者アンケートでは交通指導の安全対策では85%、施設・設備の安全管理においては98%の理解を得ている。引き続き安全管理の徹底に努めていきたい。	
教育課程	特別支援教育	特別支援教育の推進や支援の必要な生徒に対するきめ細かな教育の推進と充実を図る。	B	特別支援教育の共通理解に関しては、昨年度より9ポイント上昇し、97%の教職員が肯定的に評価している。小中連携に関しても、昨年度より5ポイント上昇し79%の肯定的な評価になっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、氷上地域の小中交流会は中止となったが、児童生徒の状況や授業形態、特別支援における工夫等、定期的に情報交換を実施することができた。生徒の個別の指導計画や個別の教育支援計画(サポートファイル)に基づいた生徒へのサポート体制を推進した。特別支援や通級指導を通して、個に応じた支援や指導を実施した。三密回避を意識しながら、今後も特別支援教育の校種間連携による相互理解や生徒支援体制の実践に努めていきたい。
	学習指導	基礎学力の定着と学力向上をめざして、家庭学習の充実や朝読書に取り組む。  授業内容の充実と改善を図り、全職員で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて課題に興味を持ちながら主体的に取り組む。	C  C	一人でやりきることのできる基礎基本を確かめる課題を中心に家庭学習とし、学習習慣の定着をめざした。ただ、生徒アンケートによると提出物等をきっちりと出す習慣が身につけていない生徒が約25%を占めている。最後まで粘り強く取り組む姿勢の育成に課題がある。また、図書委員会と連携して学級文庫を定期的に入れ替えるなど、朝読書の時間の充実を図った。さらに読書に親しませる取り組みの工夫が必要である。  今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学年ごとに授業研修会を行った。アンケートでは、「楽しくわかる授業」について、生徒・保護者ともに84%が肯定的な回答をした。今年度末には1人1台のタブレット端末が整備された。ICT機器を効果的に使用し、日々の授業で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように今後の研修をすすめる必要がある。
※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育 ※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)				
領域	観点例			
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等			
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等			
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等			
※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善				

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
ホームページは毎日更新され、その日の生徒や学校の様子がよくわかる。保護者や地域に生徒の様子や学校の取組を発信することは大切である。地域で出会う氷上中の生徒は良く挨拶してくれるなどとても良いと思う。ただ身近に生徒がいないので、全体としてどんな状態なのかはよくわからない。そもそもあいさつなどは学校の責任なのか疑問だ。ただ、中学生が地域に出て行って、大人や高齢者と交流できるようにすることは大切だと思う。また、生徒との何気ない交流こそに連携の意義があると考えている。 今年は何かにつけて連携が難しかったと思う。工夫して取り組めたと評価した根拠となるアンケート結果を示してほしい。
全体では落ち着いて学校生活が送れている。SNSでの生徒間トラブルが毎年発生しており、来年度も生徒や保護者を対象にした講習会等で正しいスマホの使い方を指導する必要がある。特にコロナ禍でネット依存が進行していると考えられることから必要だ。 不登校生徒に対しては担任だけが抱え込まず、今後も学校全体の問題として取り組んでいただきたい。不登校を完全に防ぐのは難しいが、小学校との連携を強化し、要素のある生徒をチェックしておくことも必要ではないか。来年度も生徒支援担当や養護教諭も含めて全職員で指導体制を整える必要がある。何よりも不登校生徒の居場所を作ることが大切である。 生徒の活動が教師の下請けにより活発なのでは意味がない。生徒の主体的な活動にすべきと考える。
通学態度の苦情は減ってきたとのことだが、今後とも交通安全指導を継続的にお願いしたい。命にかかわることは厳しく指導すべきだ。PTAや地域、職員による定期的な登下校指導を地道に繰り返しながら、安全管理を来年度もお願いしたい。生徒の通学マナーは全体的には良好だと思われる。絶対に安全という通学路はないので、一人ひとりの意識を高めることが大切である。
5学級24名の特別支援学級在籍生徒に対して、全職員で支援体制を整えて取り組んでいる。今年は体験活動がほとんどできなかった。通常学級の生徒も含め、体験活動等には学校全体で取り組むべきである。また「なぜこの生徒はこういう行動をするのだろうか」というように一人ひとりの生徒の背景を理解することが大切である。合理的配慮、インクルーシブ教育は理念が先行し実践が追いついていないと感じる。具体的に理解したうえで学年セクトを排し、全校で取り組むことが大切だ。
提出物を出す習慣がついていない生徒が25%もいるのは気になる。学校ではどのような指導をしているのか具体的に示してほしい。家庭学習についても学校としての指導方針(基準)は無いのか、組織的対応になっていない点が気がかりである。 ひとり1台のタブレットパソコンについては生徒も教師も違和感なく使っており、スムーズに導入できたのではないかと。ただあくまでもツールであることを理解し、何のために使い、何をさせるのか明確にしていかなければならない。これからの課題であろう。 授業改善については、各学年各教科ごとに実施しないとなかなか効果が期待できない。
<b>自己評価の実施方法についての評価</b> 保護者からの自由意見も多数いただき、多くの保護者の学校に対する意見や気持ちを理解することができた。生徒アンケート、保護者アンケート、教職員の自己アンケートは適切な時期に実施され、それぞれのデータは的確に分析されており、今後もこの方法で取り組まれることを期待する。 どのアンケートで評価したのか根拠を明らかにすべきであると考えます。
<b>学校関係者評価のまとめ</b> ホームページの更新や学校通信、学年通信、保健だより等により保護者や地域とのつながりを意識した取組がなされている。学校と地域や家庭との連携をさらに図れるように取組を継続していただきたい。 生徒たちの活動も生徒会を中心に行事など充実している様子が見られる。学力向上や特別支援など多くの課題があるが、学校全体で解決していくことが必要である。 活発に取組が進められ、活動が展開されているとのことだが生徒が教師の下請けになっていないか。主体的な活動であるべきと考える。 評価項目が毎年同じなのはどうなのか。達成した項目は変えてもよいのではないかと。毎年同じような評価結果が示されている。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ① 不登校を防ぐ組織的な対応や指導の実施と的確な早期対応を実施する。
- ② 学力向上のための授業の工夫改善の推進と「主体的、対話的で深い学び」の実現を図る授業の展開を進める。
- ③ HPや通信等による情報発信により保護者との信頼関係の構築を図るとともに地域との連携を強化する。
- ④ 秩序ある落ち着いた学校づくりと地域に開かれた教育課程の実現を図る。

令和3年3月15日

学校名 丹波市立氷上中学校  
校長名 足立 幸広 印